

令和元年度 学校評価アンケート【教職員】の分析

肯定的評価・・・a「よくあてはまる」とb「ややあてはまる」を合わせたもの
否定的評価・・・c「あまりあてはまらない」とd「あてはまらない」を合わせたもの

◎肯定的評価が多いもの（今年度80%以上）

- ・26項目中20項目において、肯定的評価が多くなっている。
- ・次の項目は肯定的評価が100%であった。
項目11：いじめ防止のための丁寧な対応を行っている
項目12：教職員は体罰を行っていない
項目14：保護者とのコミュニケーションを大切にしている
項目23：年間授業時数が確保されている

○肯定的評価は多いといえないものの（今年度80%未満、60%以上）、比較的良い評価のもの

項目20：校務分掌は全体のバランスを考えたものになっている	73.9%
項目3：生活規律を守る指導について、生徒保護者は理解している	69.6%
項目24：学校行事が精選されている	69.6%
項目26：業務改善やワークライフバランスを意識している	66.0%
項目25：研究授業に励む環境が整っている	61.7%

●肯定的評価が少ないもの（今年度60%未満）

項目17：生徒はよく質問に来ている	43.5%
-------------------	-------

[まとめ]

- ① 肯定的評価が100%であった項目11、12、14において、生徒、保護者からの回答と照合すると必ずしも一致しておらず、学校の意図するところが上手く伝わっていない面があると考えられる。今後もなお、一層丁寧な対応をしていく必要がある。
- ② 項目20、24、25、26は、学校運営上の課題である。学校行事の精選や校務分掌の在り方については更なる改善が必要であり、授業研究や生徒に十分にかかわる時間が確保できる環境を作り出していかなければならない。
また、働き方改革をすすめ、教職員で協力しながら、各々の公私の生活のバランスをとっていくことが求められている。
- ③ 生徒の学びへの主体性、探究的な関心・意欲・態度にもの足りなさを感じている教員が多く、継続的な課題となっている。